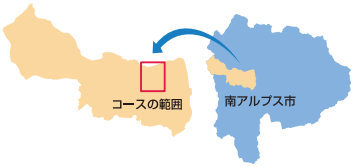
vol.5

戦争遺跡 ロタコを歩く



●コースあんない　三宮神社～横穴壕～三宮神社まで　距離9.4km／時間約3時間

①三宮神社 → 0.1km 2分 → ②滑走路跡 → 0.5km 9分 → ③誘導路1 → 1.6km 31分 → ④白根源小学校 → 0.5km 9分 → ⑤了円寺 → 1.5km 28分 → ⑥築山の横穴壕跡1 → 0.7km 13分 → ⑦築山の横穴壕跡2 → 1.0km 18分 → ⑧福王寺と横穴壕跡 → 0.3km 5分 → ⑨徳島堰と掩体壕群 → 0.2km 4分 → ⑩ロタコの製材所跡 → 0.5km 6分 → ⑪航空本部跡と兵舎 → 0.6km 11分 → ⑫常楽寺 → 0.5km 9分 → ⑬1・2号掩体壕 → 0.2km 4分 → ⑭3号掩体壕 → 0.2km 4分 → ⑮誘導路2 → 0.4km 8分 → ⑯白根飯野小学校 → 0.6km 11分 → ①三宮神社

●ロタコについて

今から60年あまり前のアジア太平洋戦争末期、旧日本陸軍によって御勅使川扇状地の上（現在の飯野・源地区）にひとつの飛行場がつくられました。

飛行場の名称は「御勅使河原飛行場」といいましたが当時から、もっぱら「ロタコ」という暗号名で呼ばれてきました。

この飛行場は、東京の立川にあった航空廠を疎開させ、敵から隠すための秘密飛行場として計画されたといわれ、大型機が離着陸可能な長さ1,500m、幅100mの滑走路を中心としてさまざまな施設がつくられ、御勅使川扇状地の西側に沿ってそびえる山の斜面には、物資の保管や飛行機の工場にするために数多くの横穴壕が掘られました。

ロタコの遺構は、広大な扇状地上の約800ヘクタールもの範囲に点在し、現在でもその痕跡をいたるところにみつけることができます。

①三宮神社

滑走路南端にあり、御勅使川扇状地上の数少ないランドマークとして、建設工事に動員された地域住民や学生の集合場所のひとつとなっていた。

②滑走路跡

冬に吹き下ろす「八ヶ岳颪（やつがたけおろし）」を考え、八ヶ岳にむかって設計された幅100m、長さ1500mの滑走路。中央に設けられた誘導路は、今でも農道として利用されている。

③誘導路 1

ロタコ工事の際に作られた飛行機の誘導路のひとつ。戦後も「便利なので」そのまま農道として使われている。

④白根源小学校

子どもたちが滑走路に敷き詰めて偽装するための木の枝の採集や、松根油を造る松の根っこの採取などに動員された。

⑤了円寺

徳島堰を作った徳島兵左衛門ゆかりのお寺。兵左衛門のお墓もある。当時このお堂にも朝鮮人労働者が寝泊りしていた。

⑥築山の横穴壕跡 1

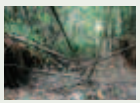
現在も山の斜面のところどころが陥没している。

⑦築山の横穴壕跡 2

陥没跡の反対側には横穴壕を掘る際に、掘り出された土の形がそのまま残っている。

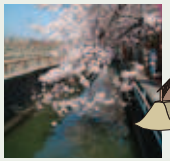
⑧福王寺と横穴壕跡

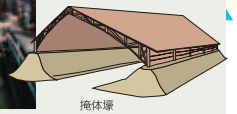
横穴壕の近くにある福王寺の過去帳には、ロタコ工事で無くなった朝鮮半島出身者の名前ものこっているという。



⑨徳島堰と掩体壕群

江戸の商人徳島兵左衛門が考案し工事に取りかかり、後に有野の矢崎又右衛門が寛文10年（1670）に完成させた用水路。御勅使川扇状地上の旱魃地帯を潤した。終戦間際には、この徳島堰の堤防に沿って、1～3号掩体壕などとは異なるこのような形の掩体壕が並んでいた。





掩体壕

⑩ロタコの製材所跡

ここで、ロタコ工事で使われる木材を一手に製材していた。現在は工場となりその面影はない。

⑪航空本部跡と兵舎

このあたりに航空本部が置かれた。現在その面影は殆どないが、本部敷地内にあった温室が兵舎に転用され、戦後温室にもどされて、現在まで残っている。

⑫常楽寺

飯野小学校が接収されたため、子どもたちは、机にするミカンバコを持ち寄って、このお寺で勉強したこともあったという。本尊の阿弥陀如来立像は県指定文化財。

⑬1・2号掩体壕

畑の中に残る掩体壕の跡。2号掩体壕は平成18年に発掘調査が行なわれた。

⑭3号掩体壕

平成17年にはじめて発掘調査がおこなわれた。

⑮誘導路 2

南半分は地域の人々が常楽寺にむかう「オテラミチ」を拡幅。北半分は、ロタコ工事に際して新設された。新設部分は戦後畑にもどされた。

⑯白根飯野小学校

校舎が陸軍に接収されたほか、高等科の子どもたちは、男子は木工所、女子は製糸場に勤労動員された。校内には、学徒動員の記念碑がある。

ここに掲載した見学ポイントの多くは私有地です。土地への立ち入りについては、あらかじめ了解を得るなど充分注意してください。